

◆◆◆ 気象庁、ヒートアイランド監視報告をとりまとめ

気象庁では、平成16年度以降、関東地方及び近畿地方におけるヒートアイランド現象の特徴について調査を実施し、毎年「ヒートアイランド監視報告」として、調査結果を公表しています。今般、「ヒートアイランド監視報告（平成20年・東海地方）～東海地方におけるヒートアイランド現象の特徴を調査～」と題して、平成20年に名古屋を中心とする東海地方を対象に実施された調査の結果を取りまとめたものが発表されました。この監視報告の概要は以下のとおりです。

○名古屋の気温は長期的に上昇しており、その割合は中小都市に比べて大きく、特に冬季や夜間に顕著。これは東京などの大都市と同様の傾向で、名古屋の気温は、都市化の影響が現れていると言える。名古屋の熱帯夜の日数は10年あたり3.4日の割合で顕著に増加している。

○都市気候モデル（都市の地形、土地利用、人工排熱などに起因する熱のやりとりをモデル化し、これを入力して大気の状態をコンピュータ上で都市の気温分布などを再現する数値モデル）を用いて、ヒートアイランド現象が顕著に現れる「晴れて風が弱い日」を対象に調査したところ、名古屋市を中心に濃尾平野の広い範囲に都市による気温上昇の影響が及んでいることがわかった。そのなかには、日中の名古屋市付近で3～4℃程度の気温上昇が見られるなどの顕著な事例もあった。

○岐阜県多治見で我が国の観測史上1位タイの40.9℃の高温を記録した平成19年8月16日における都市の影響は、平均的な「晴れて風が弱い日」と同程度であったことから、勢力の強い高気圧に覆われたことなど自然の要因が大きく寄与していたと考えられる。

このほか同監視報告には、西日本を中心に高温となった平成20年夏の関東地方と近畿地方における晴れて風が弱かった日の調査結果や、全国の大都市における気温や熱帯夜日数等の長期的な変化傾向についても掲載されています。
(気象庁ホームページから)